2021年度 卒業論文 2022/01/12 14:46

オンライン授業導入による学生生活の変化に関する実態調査

大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科
情報教育システム研究室

18H050 澤野錬

オンライン授業導入による学生生活の変化に関する実態調査

18H050 澤野錬

1　はじめに

2021 年度で全国の大学、短期大学、高等専門学校のうち、どれだけの学校がオンライン講義を実施しているのか。文部科学省の調査 [1] によると、全国の大学、短期大学、高等専門学校計 1,064 校のうち、「全面対面」と答えたのが全体の 36%、「ほとんど対面」が 29%、「7 割を対面」が 17%、「半々」が 14% で、全体の 9 割以上が講義の半分以上を対面講義にする方針に決定していた。対面授業の実施は増加しているが、コロナ禍の影響により、非対面授業の実施から約 1 年が経過したことで、学生たちのオンライン授業での大学生活に対する姿勢・意識がどうように変化したか調査を行った。

2　目的

本研究の目的は、オンラインでの授業が実施され始めて 1 年が経過したことによるオンライン授業での大学生活に対する学生の姿勢・意識の変化を調査することである。COVID-19[*1]拡大に基づく、大学側の判断及び、昨年度と今年度前期授業が非対面が主体である状況の影響を多方面から考えた。影響は “課題”、“大学生活”、“私生活” の 3 つと考える。調査する上で質問することを明確化し、内容にまとまりを持たせるために仮説が必要と考えた。

3　検証結果

検証には Google フォームを用いて仮説を基に作成したアンケートをを用い、19H と 20H の学生に協力していただいた。アンケートの期間は 11 月 15 日から 11 月 24 日とした。結果として仮説と相違することが多く、学年によって回答が大きく異なること点もあった。前年度は課題を進めるうえでは “量” に不安を感じている学生の割合が最も多かったが、今年度は “提出期限” に不安を感じている学生の割合の方が多くなっていた。20H の学生にとってはオンライン授業が “普通” の授業であるためか、非対面授業中に孤独を感じている割合が 19H の学生に比べ、圧倒的に少なかった。前年度に比べて、グループ別での対面授業が実施され始めたことで大きく変化していると推測していたが、全体的に前年度と大きな変化はなかった。

4　まとめ

導き出した仮説は “同期との人脈は広がりやすい”、“生活習慣は乱れやすい”、“課題に対する不満は減少した”、“大学生感は感じやすい”、“不安感は減少した” とした。アンケートの結果としては、“前年度に比べて、クラスメイトと会う機会は増え、同期との人脈は広がりやすいが、先輩や後輩といった上下の人脈は未だ広がりにくい”、“グループ別での対面授業の実施により、昼夜逆転は抑制されているが、就寝時間が遅く、生活リズムは悪い”、“課題の量は未だに多いが、量ではなく提出期限に不安を感じる学生が増えた”、“大学に行く事は増えたが、学生食堂などの施設が利用できないため、大学生感は感じにくい”、“クラスメイトと会う機会は増えたが、自分だけ出来ていないように陥った学生の割合に変化はない” という傾向だった。

調査の詳細は卒業論文に記載している

参考文献

[1] R3 年度前期の大学等における授業の実施方針等に関する調査結果. https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

[2] コロナ禍における学生の学習意欲及び生活環境への影響に関する実態調査. http://www0.ise.osaka-sandai.ac.jp/2020/17H013/

[*1] WHO での新型コロナウイルスの呼称

目次

1 はじめに 1

2 目的 2

3 仮説の導出手順 3
- 3.1 KJ 法 . . . 3
- 3.2 KJ 法-ラベル化 . . . 4
- 3.3 KJ 法 - グループ化 . . . 5
- 3.4 KJ 法 - 図解化 . . . 6
- 3.5 KJ 法 - 文章化 . . . 8
- 3.6 KJ 法 - 短文を文章化へ . . . 10

4 仮説 11

5 検証 12

6 仮説に沿った結果と考察 13
- 6.1 同期との人脈は広がりやすい . . . 13
- 6.2 私生活は乱れている . . . 15
- 6.3 課題が多い . . . 18
- 6.4 大学生感を感じない . . . 21
- 6.5 不安を感じる . . . 23
- 6.6 生活の乱れによる遅刻 . . . 25
- 6.7 質問はしやすく感じる . . . 26

7 まとめ 27

8 今後の課題 28

付録 A 付録 1 31
- A.1 アンケートのお願い文 . . . 31
- A.2 アンケートの注意書き . . . 31

付録 B 付録 2 32
- B.1 アンケート本文 . . . 32

1　はじめに

2021 年度で全国の大学、短期大学、高等専門学校のうち、どれだけの学校がオンライン講義を実施しているのか。文部科学省の調査 [1] によると、全国の大学、短期大学、高等専門学校計 1064 校のうち、「全面対面」と答えたのが全体の 36%、「ほとんど対面」が 29%、「7 割を対面」が 17%、「半々」が 14% で、全体の 9 割以上が講義の半分以上を対面講義にする方針に決定していた。対面授業の実施は増加しているが、コロナ禍の影響により、非対面授業の実施から約 1 年が経過したことで、学生たちのオンライン授業での大学生活に対する姿勢・意識がどうように変化したか調査を行った。

第 2 章では本研究の目的について述べる。第 3 章では本研究の仮説の導出手順を述べる。第 4 章では本研究の仮説について述べる。第 6 章では仮説に沿った結果と考察を述べる。第 7 章には研究のまとめについて述べる。第 8 章には今後の課題について述べる。

2　目的

本研究の目的は、オンラインでの授業が実施され始めて 1 年が経過したことによるオンライン授業での大学生活に対する学生の姿勢・意識の変化を調査することである。COVID-19[*1]拡大に基づく、大学側の判断及び、昨年度と今年度前期授業が非対面が主体である状況の影響を多方面から考えた。影響は “課題”、“大学生活”、“私生活” の 3 つと考える。調査する上で質問することを明確化し、内容にまとまりを持たせるために仮説が必要と考えた。

[*1] WHO での新型コロナウイルスの呼称

3　仮説の導出手順

ブレーンストーミングと KJ 法を用いて、どのようにして仮説を導き出したのか、その手順を記す。

3.1　KJ 法

ブレーンストーミングによって多くの意見やアイデアをラベルとして書き出し、関連性や共通点のあるラベル同士をグループ化し、論理的に整序して問題解決の筋道を明らかにしていく手法。バラバラの情報に対して、「ラベル化→グループ化→図解化→文章化」のステップを踏むことにより、ラベル同士の関係性を視覚化し、問題や解決方法の発見、さらなるアイデアの創出をすることができる。収束的帰納法の中では最も代表的な技法となっている。ブレーンストーミングと KJ 法の順序を図 1 に示す。

図 1　ブレーンストーミングから仮説を導き出すまでの手順。左から順番に進めることで、情報の整理、分類を的確に行うことができる。

3.2　KJ 法-ラベル化

昨年度との比較を行うため、昨年度に発表された卒業論文を基に、「課題」「不安」「質問」「大学生感」等、あらかじめ 9 項目に分割し、ブレーンストーミングを行った。ブレーンストーミングによって合計 155 個のラベルを作り出した。ブレーンストーミングを行う際には同期の学生の協力を得た。課題や質問など授業関係はデメリットが多く感じ、通学や持ち物に関してはメリットの方が多いと感じた。

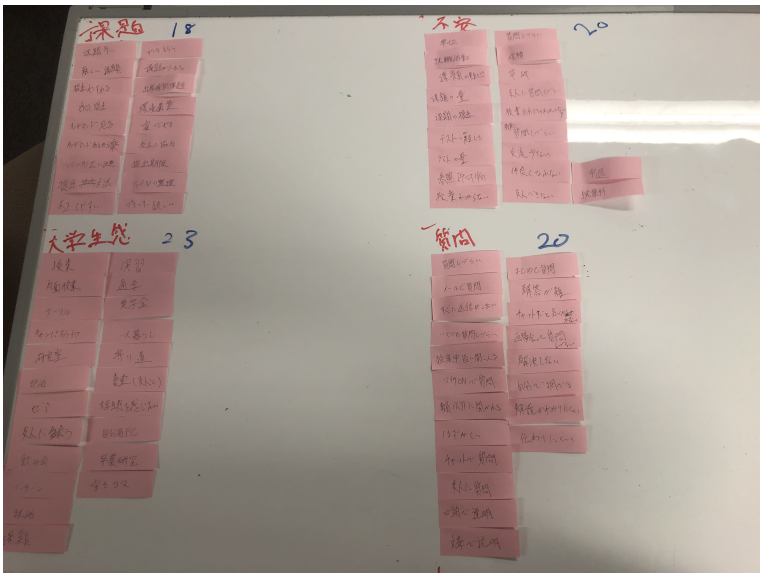

図 2　「課題」「不安」「大学生感」「質問」に関して、学生が感じていそうなことを書き出した結果。

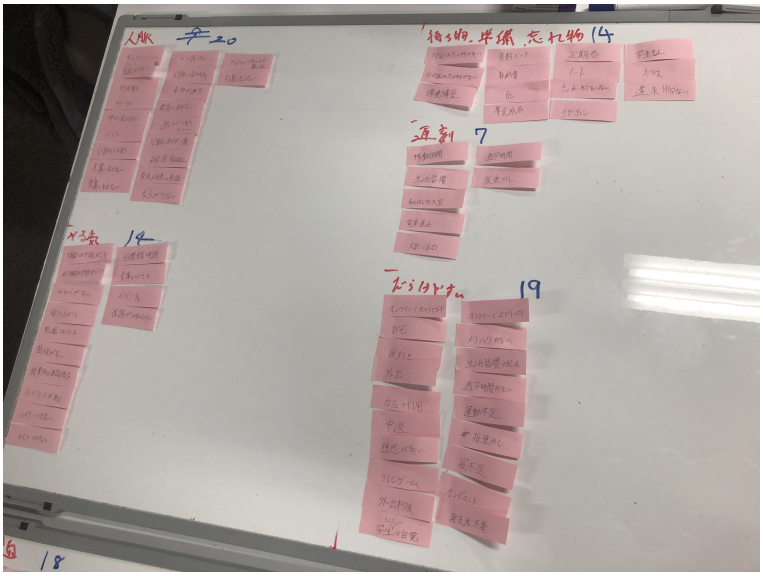

図 3　「人脈」「やる気」「持ち物、準備物」「遅刻」「だらけやすい」に関して、学生が感じていそうなことを書き出した結果。

3.3　KJ 法 - グループ化

グループ化をするために関連性のあるものをまとめて表札を付けていく。表札は一目で内容を把握できるようにする必要があり、「内容を抽象化しすぎない」「簡潔に表す」等を守りつつ、まとめたラベルの要約であることが条件である。その方法に沿って、36 個の表札を付けた。表札を付ける際に、1 つの表札に対して、ラベルの数が 2 から 6 個になるようにした。どこの表札にも属することができないラベルも存在したが、無理にグループ化せずに放置した。

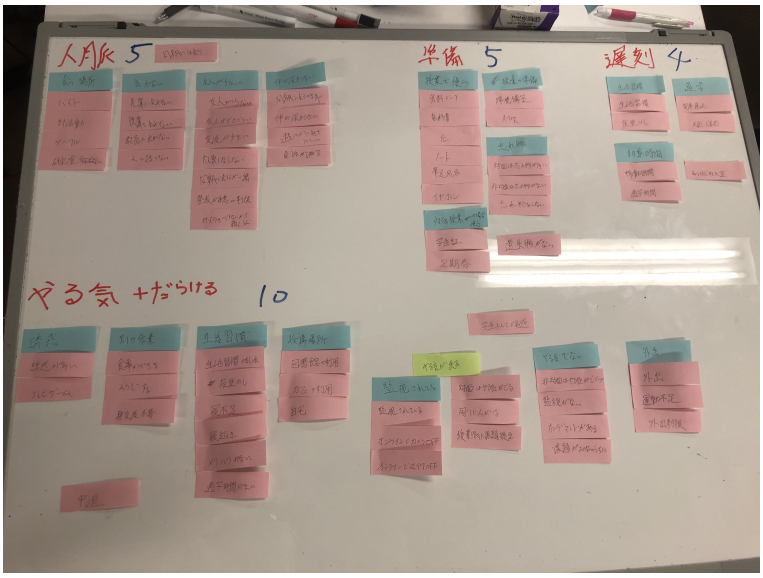

図 4　「人脈」「やる気」「持ち物、準備物」「遅刻」「だらけやすい」に関して出たラベルをグループでまとめた図。青色の表札は小グループでまとめた表札を示している。

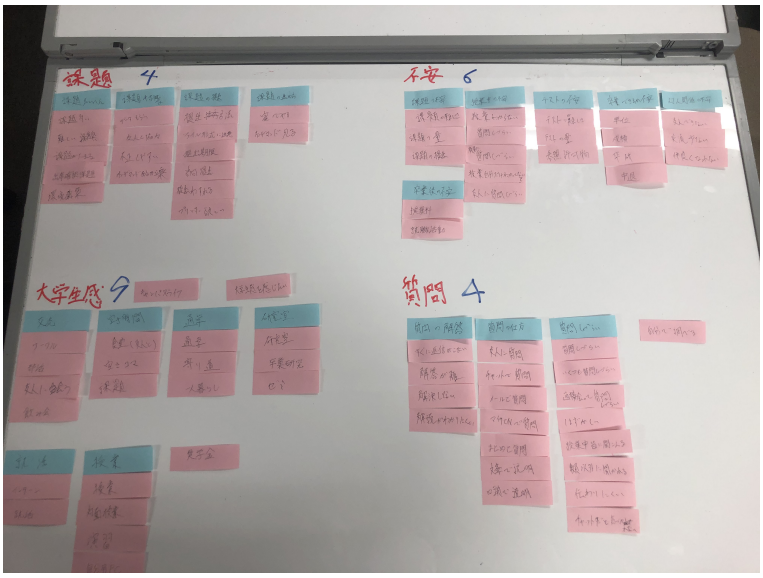

図 5　「課題」「不安」「大学生感」「質問」に関して出たラベルをグループでまとめた図。青色の表札は小グループでまとめた表札を示している。

3.4　KJ 法 - 図解化

グループ化を行った後、再び全体のラベルを見返し、グループは違えど関連性のあるラベルのフレームワークを行う。図解化をする際は、因果関係を視覚的にも分かりやすくするため、矢印や原因である場合は「原」、結果である場合「結」などを書き込むことを意識して作業を行った。図解化を行う際に用いられるフレームワークはいくつか存在する。フレームワークを図 6 に示す。

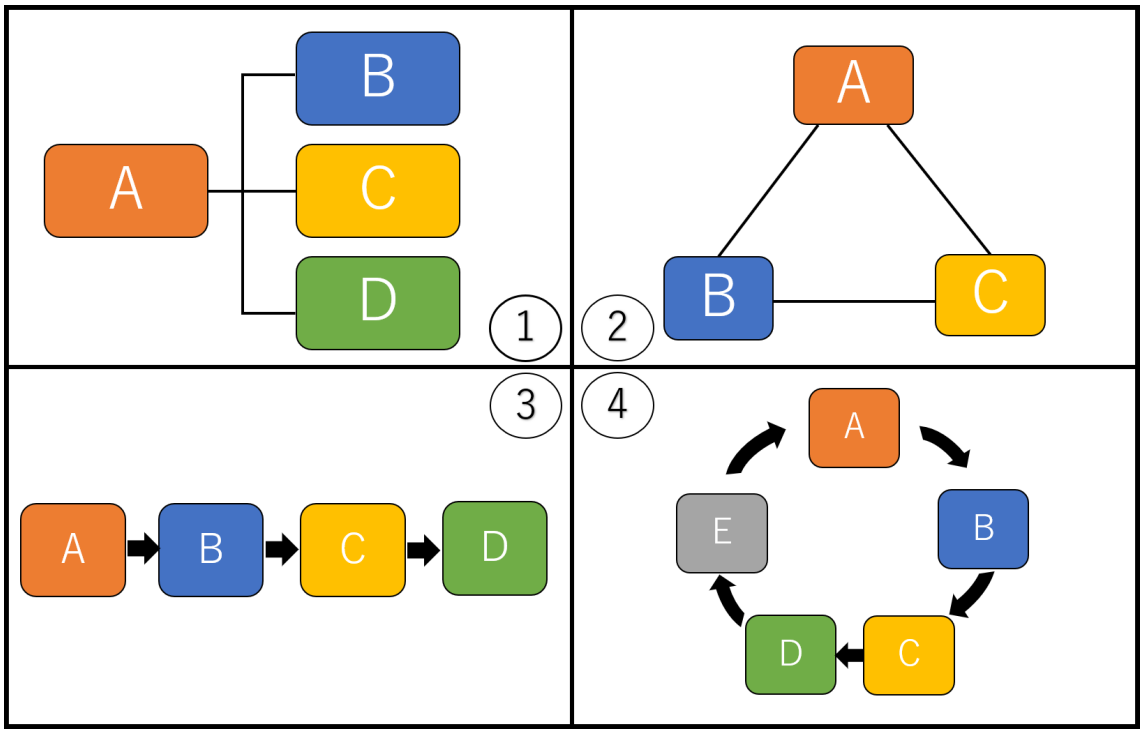

図 6　KJ 法の図解化を行う際に用いるフレームワークの種類。番号順に、ツリー型・サテライト型・フロー型・サイクル型となっている。それぞれの型の説明を下記に記す。

1. **ツリー型**　要素を「レベル別に分解」し、「階層状」に示す図形パターン。
2. **サテライト型**　要素の「相互依存関係」を示す図形パターン。
3. **フロー型**　要素の「時間的な流れ」を示す図形パターン。
4. **サイクル型**　要素の「循環的な流れ」を示す図形パターン。

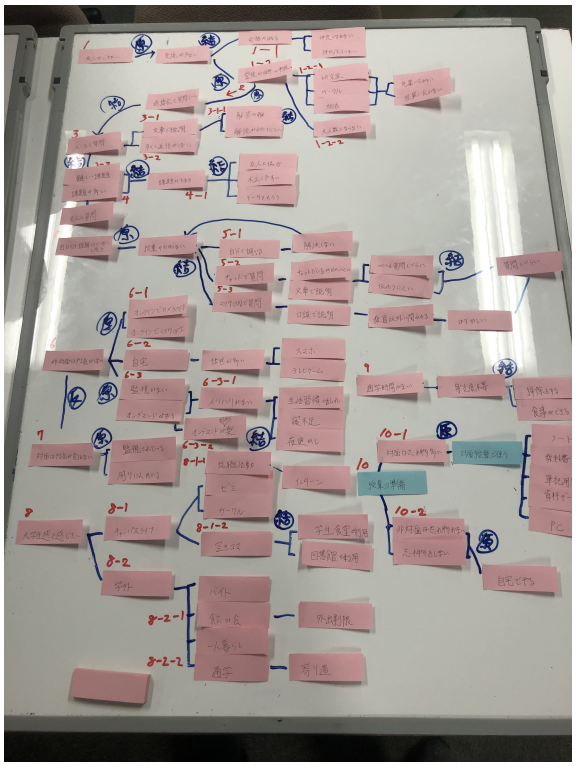

図７　文章化をスムーズに行うために、共通点や関連性があるラベルは先頭の番号が同じになるように作業を行った。

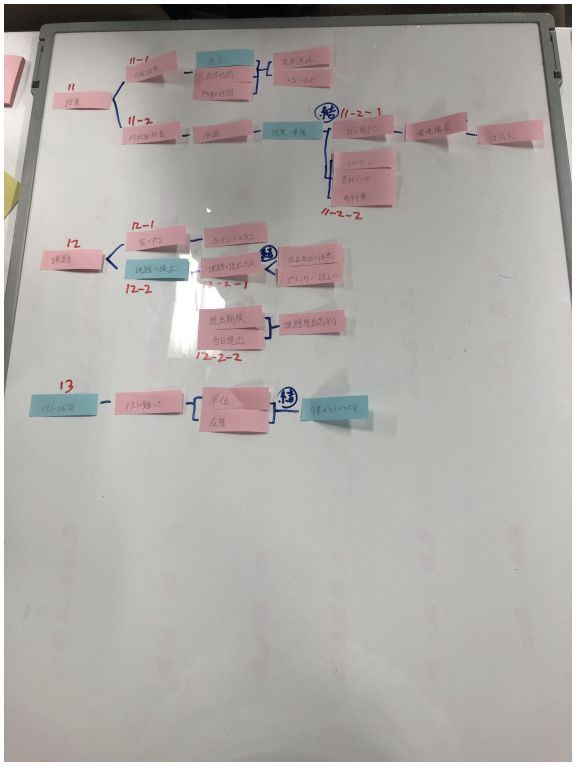

図８　本研究では主にツリー型とフロー型を利用し、図解化を行った。

3.5　KJ 法 - 文章化

図解化を行った後、ノートに短文化を記入していく。まとめられない場合 1 文でも可とする。短文化を行う際は、図解化の際に使用したワードを必ず使用するようにする。先頭の番号は違うが、類似する文がいくつか存在するため、後の文章化でまとめるようにする。

1　交流が少ないので友達ができない。
1-1　話す機会が減るので仲が深まらない。
1-2　登校が制限されているため、研究室、サークル、部活動に行くことができない。
1-2-1　研究室、サークル、部活動ができないので、先輩や後輩に会わない。
1-2-2　登校が任意又は制限されているため、大人数になることがない。
1-2-3　登校が任意又は制限されているため、直接会って質問しづらい。
2　メールで質問してもすぐに返信がこない。
2-1　メールでは文章で説明する必要がある。
2-1-1　メールでは文章で説明しないといけないため、回答が分かりにくいことがある。
2-1-2　メールでは文章で説明しないといけないため、回答が雑になることがある。
3　課題が多かったり、難しかったりすると、課題が溜まってしまう
3-1　課題が溜まると、友人と協力やデータをもらったりする。
4　授業が分からないと、自分だけが理解できていないと思ってしまう。
4-1　授業が分からないので自分で調べるが、解決しないこともある。
4-2　チャットだと文章で質問する必要がある。
4-2-1　文章だと説明が伝わりにくいことがある。
4-2-2　文章で説明すると、文量的にいくつも質問しづらい。
4-2-3　チャットだと気づかれないことがある。
4-3　マイク ON だと口頭で質問する必要があり、口頭だと教員以外にも聞こえるので恥ずかしい。
5　非対面だとカメラ・マイク OFF のため、やる気がでない。
5-1　自宅での受講はゲームや漫画などの誘惑が多い。
5-2　非対面は監視がない上、オンデマンドでも受講ができるため、メリハリがなくなる。
5-2-1　メリハリがないと、夜更かしや寝不足など生活習慣の乱れにつながる。
6-1　キャンパスライフで大学生感を感じたい。
6-1-1　サークル、ゼミナール、就職活動のインターンで大学生感を感じる。
6-1-2　空きコマに学生食堂での談笑や図書館の利用で大学生感を感じる。
6-2　学外で大学生感を感じたい。
6-2-1　一人暮らしやアルバイトで大学生感を感じる。
6-2-2　学校帰りの寄り道で大学生感を感じる。
6-2-3　飲み会で大学生感を感じたいが外出自粛がある。
7　通学時間がないと身支度不要になる。
7-1　空き時間に掃除や食事をとったりする。
8-1　非対面は忘れ物をしない。
8-1-1　自宅で受講するので、持ってき忘れることがない。
9-1　非対面授業では演習の場合、PC に office などの環境構築をしておく必要がある。
10-1　課題はオンデマンドをみて自宅ですることができる。
10-2　課題提出の際にプリントアウトしたものを撮影したりなど提出方法に注意する必要がある。

10-2-1　課題が多いと提出期限を間違えたり、忘れたりすることがある。

11-1　難しいテストがあると、単位や成績が不安になり、卒業できるか不安になる。

3.6　KJ 法 - 短文を文章化へ

図解化から出てきた短文を見直し、さらに関連性や共通点のある短文をまとめ、文章化を行った。

■人脈について　登校が任意又は制限されているため、交流する機会が少なく、仲が深まらりにくい上、研究室やサークル、部活動を制限されているため、先輩や後輩に会うことも少ない。分割で対面授業を行っているので同期との交流はある。

■生活習慣　非対面の場合、カメラ・マイクが OFF で監視がなく、自宅での受講なので漫画やゲームなどの誘惑が多く、やる気が削がれやすい。誘惑に負けた結果、生活にメリハリが無くなり、夜更かしや寝不足など生活習慣の乱れにつながる。

■授業・質問　授業中に分からない箇所を自分で調べるが、解決しなかった場合はチャットかマイクを ON にする必要があるが、チャットだとうまく質問の意図を伝えられなかったり、気付かれないこともある。マイク ON だと口頭で伝えやすいが、教員以外にも聞こえてしまうため、恥ずかしいと感じる。メールでの質問は、文章で説明する必要があるので、うまく質問の意図が伝わらなかったり、教員の都合ですぐに返信がこなかったり、返信が雑になったりする。

■課題　全体の課題の量は未だ多いと考えられるため、課題を溜め込んでしまい、提出期限や提出方法を把握しきれず、期限ギリギリで友人と協力やデータをコピーしたりなどの不正が起きる可能性がある。

■大学生感　サークルや部活動、空きコマに大学内の図書館を利用したり、学生食堂で友人と談笑して大学生感を感じる。学外では、一人暮らしやアルバイト、寄り道や飲み会で大学生感を感じる。

■準備物、忘れ物　非対面授業の場合、自宅で受講するため忘れ物をすることがあまりない。但し、演習の場合は自分の PC にオフィスなどの環境構築をしておく必要がある。

■遅刻　対面授業の場合、電車の遅延や天気によって通学時間や移動時間に支障が発生し、遅刻することがあるが、非対面授業の場合は生活習慣の乱れによる遅刻が考えられる。

■不安　周りの状況が把握しづらいので、孤独感を感じたり、自分だけ出来ていないと思ってしまう。

4　仮説

KJ 法によって導き出した文章と昨年の論文と比較しながら、仮説を立てていく。

■人脈に関する仮説　前年度に比べ、同期との人脈は広がりやすい。根拠としては、昨年度は全面オンライン授業だったことに比べ、今年度はグループ別での対面授業の実施が行われているため。

■生活習慣に関する仮説　前年度に比べ、生活リズムは崩れやすい。根拠としては、昨年度のアンケートでは、19H は授業内容や授業形態についていくのにやっとだったため、昼夜逆転率は低めであったが、１年を経て授業の進め方などの要領を掴んできていると考えられるため。

■課題に関する仮説　前年度に比べ、課題に対する不満は減った。根拠としては、昨年度は全面オンライン授業だったことから、課題による成績評価の割合が高かったが、対面授業が実施され始めたことで、対面での出欠や試験の実施が可能になったため。

■大学生感に関する仮説　前年度に比べ、大学生感は感じている。根拠として、グループ別での対面授業が実施され始めたことで、昨年度に比べ、大学に赴くことが増えたため。

■不安に関する仮説　前年度に比べ、不安に感じることは減少した。根拠としては、昨年度は自分だけできていないと感じる学生や孤独に感じる学生が多かったが、グループ別での対面授業の実施により、昨年度に比べ、先生やクラスメイトに手短に聞ける環境になったため。

■遅刻に関する仮説　前年度と遅刻する学生の数は変わらない。根拠としては、前年度と同様、夜更かしなどの生活リズムの乱れによって、授業を寝過ごす学生が一定数はいると思われるため。

■質問に関する仮説　前年度と同様に質問はしづらい。根拠としては、メールや webclass の掲示板はすぐに返答がないため、活用しづらいと考えられるため。

5　検証

検証方法　Google フォームを用いてアンケートを実施した。

検証期間　アンケートの実施期間は 11 月 15 日から 11 月 24 日とする。アンケート終了後、導き出した仮説とアンケートの結果を照らし合わせ、仮設に沿って考察を行っていく。

検証対象　本学科の 2 回生、3 回生（19H、20H）を対象とし、任意参加で行った。1 年生は昨年との比較ができず、4 年生は基本的に卒業研究しか履修していないため、対象外とした。

検証結果　アンケート実施の結果、19H の学生 15 人、20H の学生 20 人の回答を得ることができた。

6　仮説に沿った結果と考察

前年度に実施されたアンケートと、今年度に実施したアンケートの 19H の学生 15 人、20H の学生 20 人、の回答をもとに仮説と照らし合わせ、考察を行う。

6.1　同期との人脈は広がりやすい

“クラスメイトと会ったことがあるか” を図 9 に “同学科の後輩と会ったことがあるか” を図 10 にそれぞれ示す。

今年度はグループ別での対面授業が実施されたことによって、回答した全ての学生がクラスメイトと会ったことがある回答した。“前年度に比べて、クラスメイトと会う機会は増えたか” という質問に対しても、6 割以上の学生が増えたと回答している。このことから同期との人脈は前年度に比べて、広がりやすくなったと考えられる。

- クラスメイトと会ったことはありますか?
  前年度は基本的に全面オンライン授業だったということもあり、19H の学生は約 6 割の学生がクラスメイトと会ったことがないと回答していた。しかし、今年度はグループ別での対面授業が実施されたことによって、回答した全ての学生がクラスメイトと会ったことがある回答した。

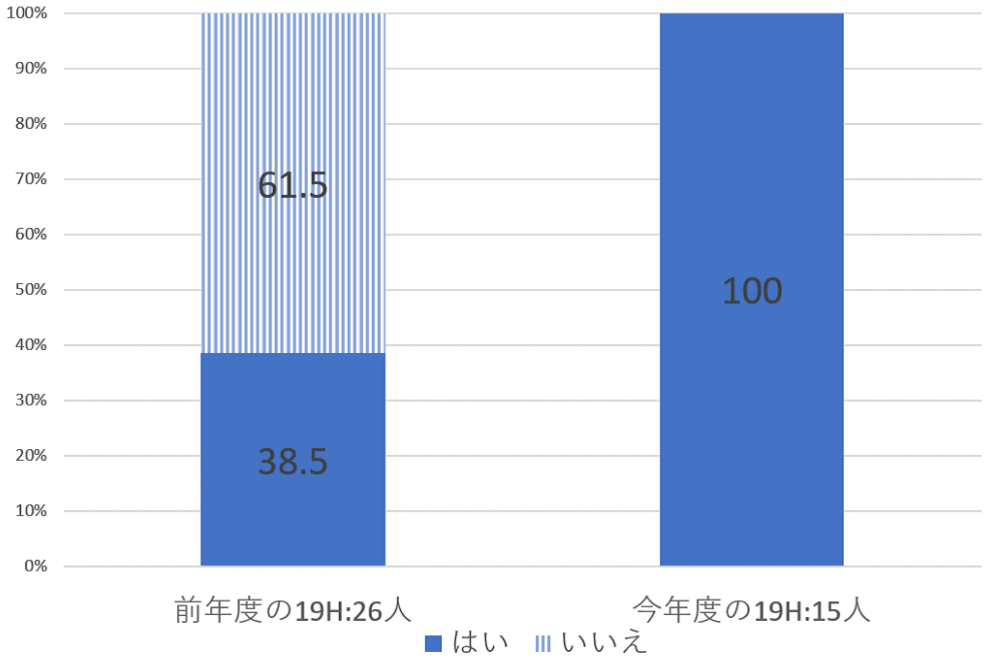

図 9　クラスメイトと会ったことがあるかのグラフ。前年度の 19H の内 “はい” は 10 人、“いいえ” は 16 人。今年度の 19H の内 “はい” は 15 人、“いいえ” は 0 人。塗りつぶしは “はい”、縦線は “いいえ” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 同学科の後輩と会ったことはありますか?
  後輩と会ったことのある学生は、前年度と同様に少ないことがわかる。後輩との交流はサークルや部活動が主な交流場所であるため、活動が制限されている状況では仕方ないといえるだろう。

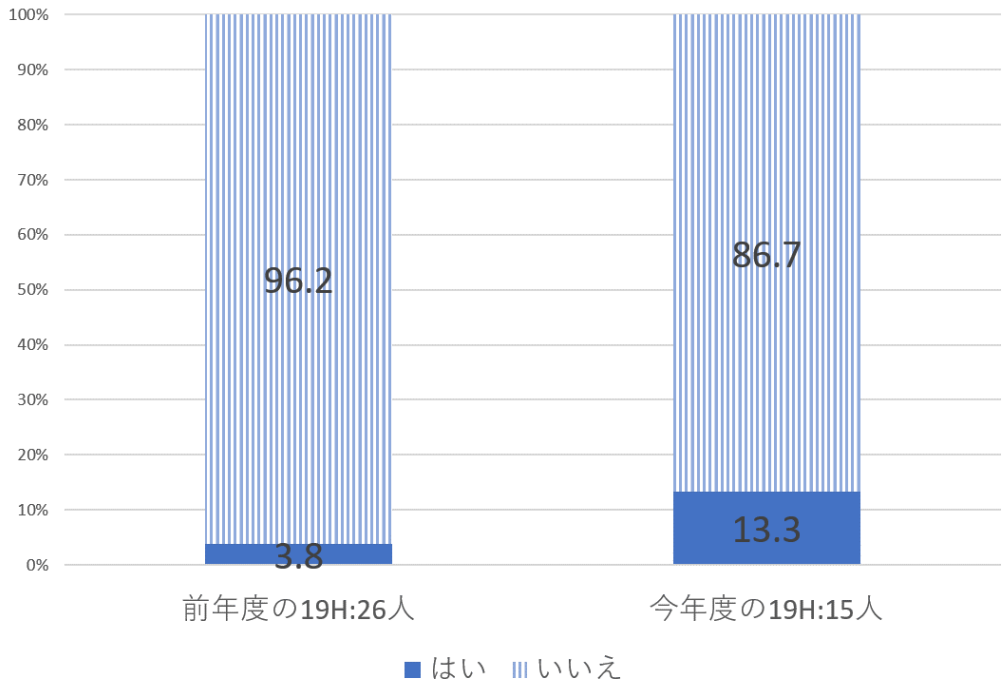

図 10　同学科の後輩と会ったことがあるかのグラフ。前年度の 19H の内 “はい” は 1 人、“いいえ” は 25 人。今年度の 19H の内 “はい” は 2 人、“いいえ” は 13 人。塗りつぶしは “はい”、縦線は “いいえ” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.2　私生活は乱れている

“昼夜逆転はしていたか” を図 11 に、“非対面授業後に何をしていることが多かったか” を図 12 に、“就寝時間は何時頃か” を図 13 にそれぞれ示す。

1 年間のオンライン授業を経て、授業や課題の進め方の要領をある程度掴めた影響により、前年度より生活習慣は乱れていると推測したが、前年度とあまり変化はないという結果となった。生活にメリハリができたと感じる学生の中に、「通学を定期的にしないといけないので、夜更かしをしなくなった。」という意見があったように、グループ別での対面授業が実施され始めたことによって、生活習慣の乱れがある程度抑制されたと考えられる。

- 昼夜逆転はしていましたか?
  1 年間のオンライン授業を経て、授業や課題の進め方の要領を掴めた影響により、前年度より昼夜逆転率は増えていると推測したが、前年度とあまり変化はないという結果となった。グループ別での対面授業が実施され始めたことによって、生活習慣の乱れがある程度抑制されたと考えられる。

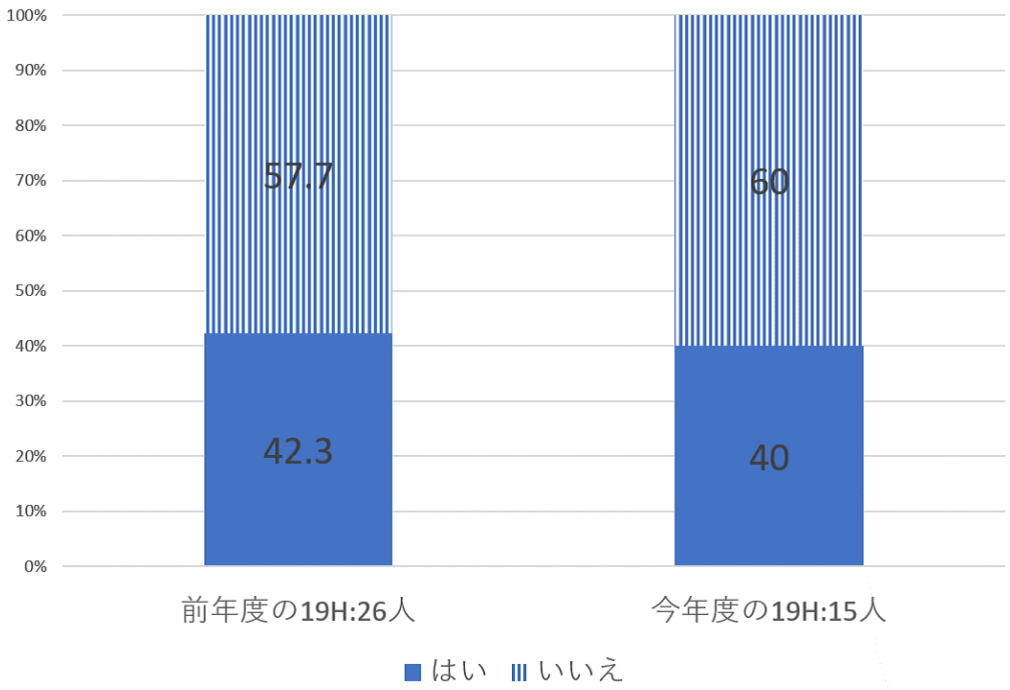

図 11　昼夜逆転の生活をしていたかのグラフ。前年度の 19H の内 “はい” は 11 人、“いいえ” は 15 人。今年度の 19H の内 “はい” は 6 人、“いいえ” は 9 人。塗りつぶしは “はい”、縦線は “いいえ” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 非対面授業後は何をしていることが多かったですか?
  昨年度は授業後に課題に取り掛かる学生が最も多かったが、今年度は授業後にゲームをする学生の割合が増えたという結果となった。昼夜逆転の際にも書いたように、1 年間のオンライン授業を経て、授業や課題の進め方の要領をある程度掴めた影響により、課題は後回しにし、ゲームなどの娯楽に手を伸ばす学生が増えたのではないかと考えられる。

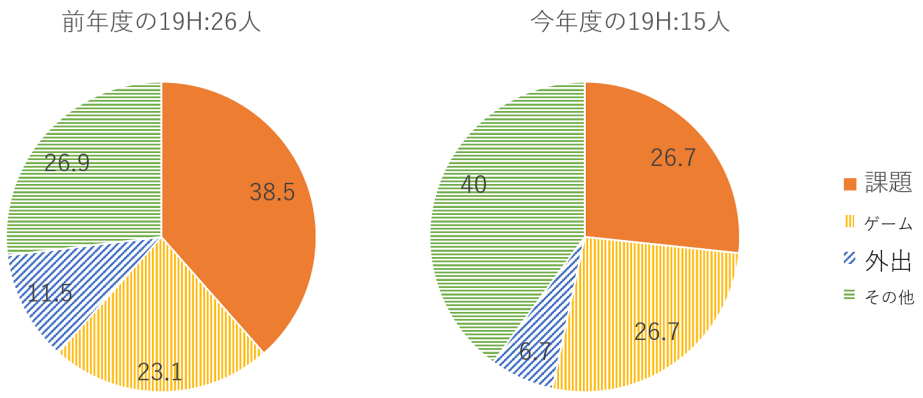

図 12　非対面授業後何をしていることが多かったかのグラフ。前年度の 19H の内 “課題” は 10 人、“ゲーム” は 6 人、“外出” は 3 人、“その他” は 7 人。今年度の 19H の内 “課題” は 4 人、“ゲーム” は 4 人 “外出” は 1 人、“その他” は 6 人。塗りつぶしは “課題”、縦線は “ゲーム”、斜線は “外出”、横線は “その他” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 就寝時間は何時頃ですか?

  昼夜逆転はしていなくとも、19H、20H ともに半分以上の学生が深夜 1 時以降に就寝していることがわかった。非対面授業の場合、今まで通学に使っていた時間を睡眠時間に当てることができるため、夜遅くまでゲームなどの娯楽を楽しみ、授業開始時間のギリギリまで睡眠していると考えられる。時間としては、十分な睡眠時間を取れていると思われるが、決して規則正しい生活と呼べるものではない。

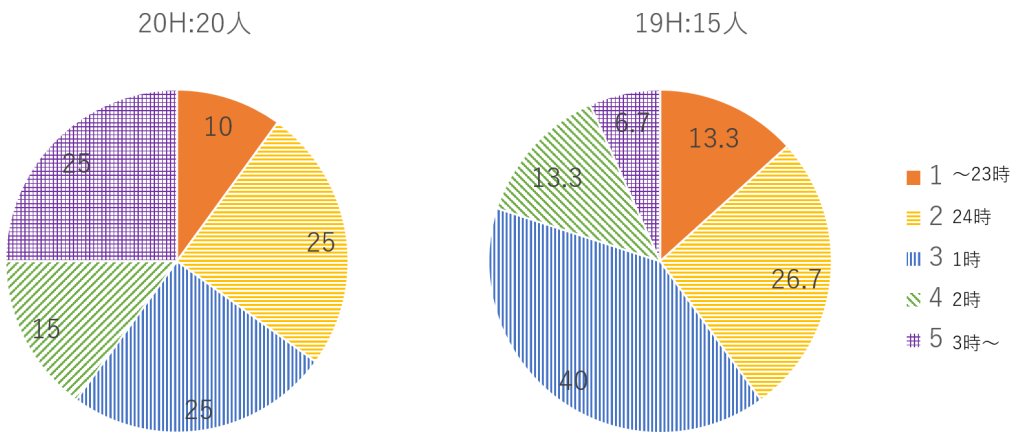

図 13　就寝時間についてのグラフ。19H の内 “23 時以前” は 2 人、“24 時” は 4 人、“1 時” は 6 人、“2 時” は 2 人、“3 時以降” は 1 人。20H の内 “23 時以前” は 2 人、“24 時” は 5 人、“1 時” は 5 人、“2 時” は 3 人、“3 時以降” は 5 人。塗りつぶしは “23 時以前”、横線は “24 時”、縦線は “1 時”、斜線は “2 時”、格子は “3 時以降” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.3　課題が多い

“課題の量についてどう感じるか” を図 14 に、“課題を進めるうえで不安だったこと” を図 15 と図 16 に、“課題の提出について” を図 17 にそれぞれ示す。

グループ別での対面授業の実施によって、課題の量は減っていると推測したが、課題の量は前年度のと変わっていないという結果となった。数週間に 1 回だけの対面授業だけでは、課題に量には影響しないという考えに至った。

- 課題の量についてどう思いますか?
  昨年度のアンケートでは 7 割以上の学生が課題が多いと感じており、今年度のアンケートでは 8 割の学生が変わらないと回答している。このことから、依然として課題の量が多いと感じている学生がほとんどだと推測できる。

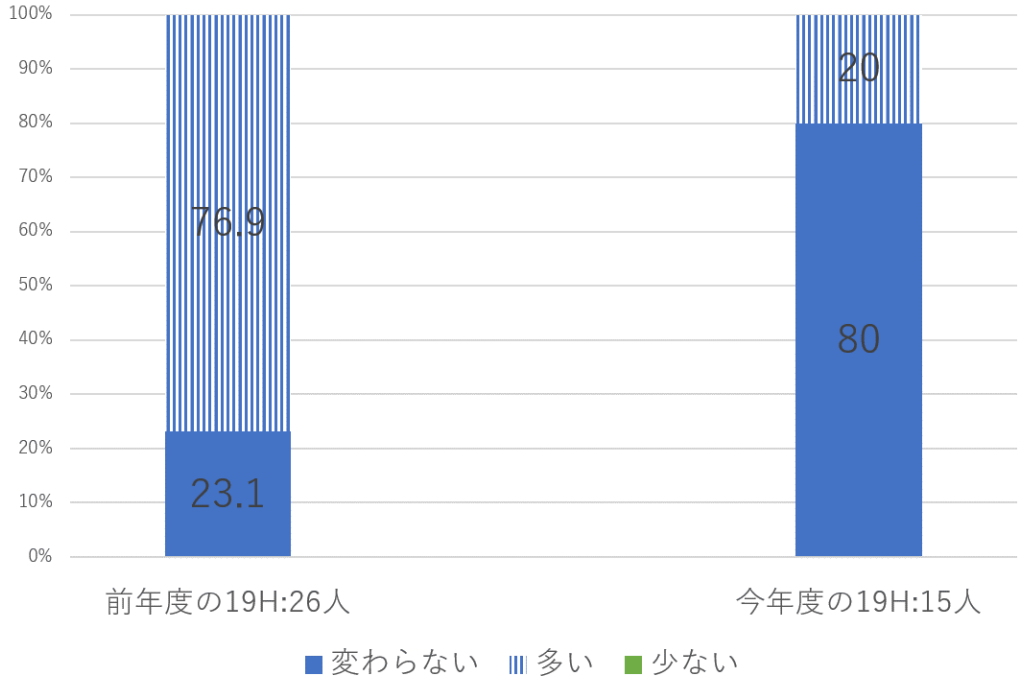

図 14　課題の量についてのグラフ。前年度の 19H の内 “多い” は 20 人、“変わらない” は 6 人。今年度の 19H の内 “多い” は 12 人、“変わらない” は 3 人。塗りつぶしは “変わらない”、縦線は “多い” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 課題を進めるうえで不安だったことは何ですか?
  前年度は課題の量について最も不安を感じていたが、今年度は提出期限に不安を感じる学生の割合が多くなっていた。課題の量についてはオンライン授業を 1 年間経験したことで慣れたのではないかと考えられる。20H についても提出期限に不安を感じる学生の割合が多くなる結果となった。

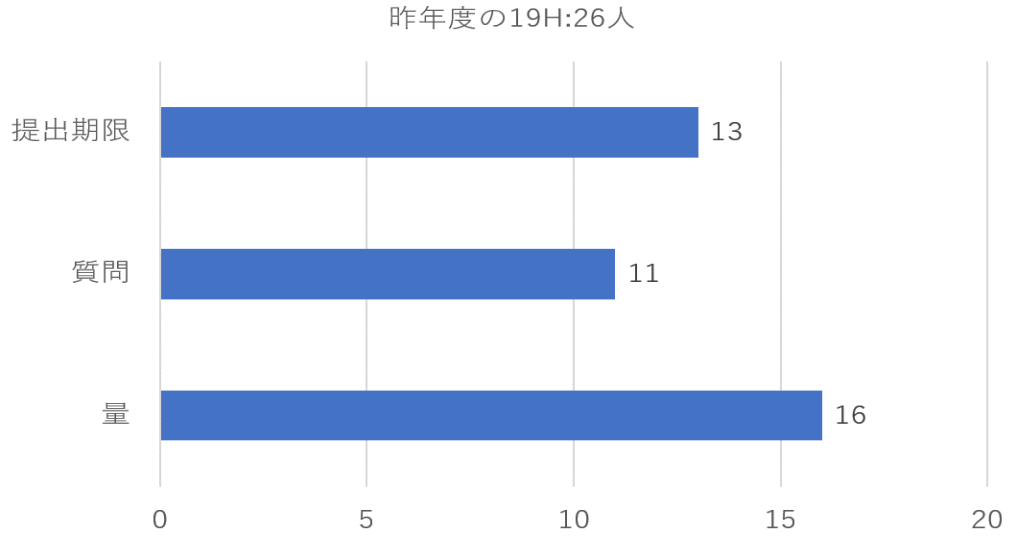

図 15　前年度の 19H の課題を進める上で不安だった要因。“量” に不安を感じている学生の割合が最も多く、次点で “提出期限” に不安を感じている。

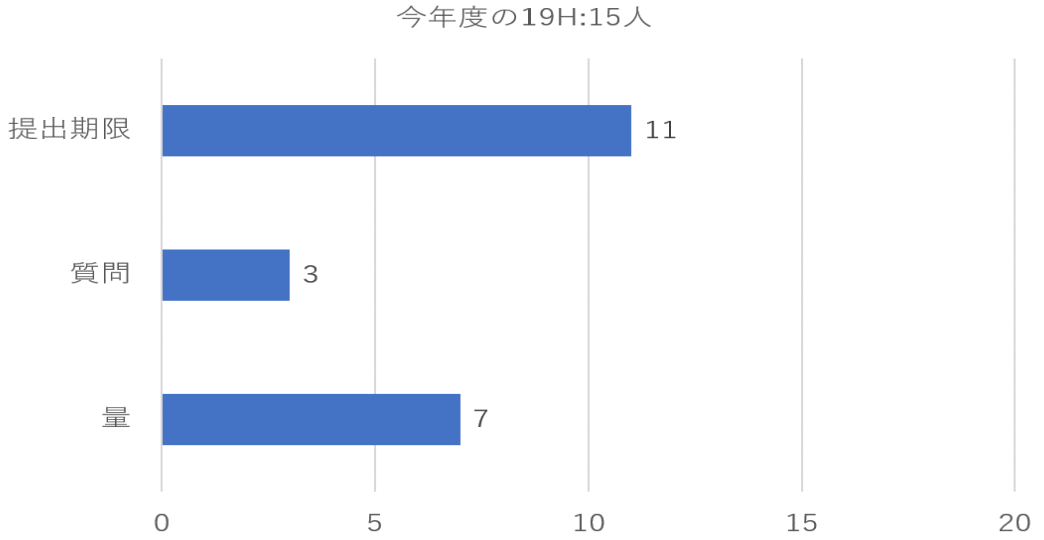

図 16　今年度の 19H の課題を進める上で不安だった要因。“提出期限” に不安を感じている学生の割合が最も多く、次点で “量” に不安を感じている。

- 課題の提出はどうでしたか?

  19H と 20H ともに課題の提出期限に最も不安を感じていたが、提出のタイミングは正反対の結果となった。昼夜逆転の際に書いたが、19H は課題の進め方の要領をある程度把握できていると考えられるため、提出期限ギリギリまで娯楽などを楽しんでいると考えられる。20H はまだ大学の授業や課題に慣れ切れていないため、不測の事態を考えて、余裕を持って課題を提出しているのではないかと考えられる。

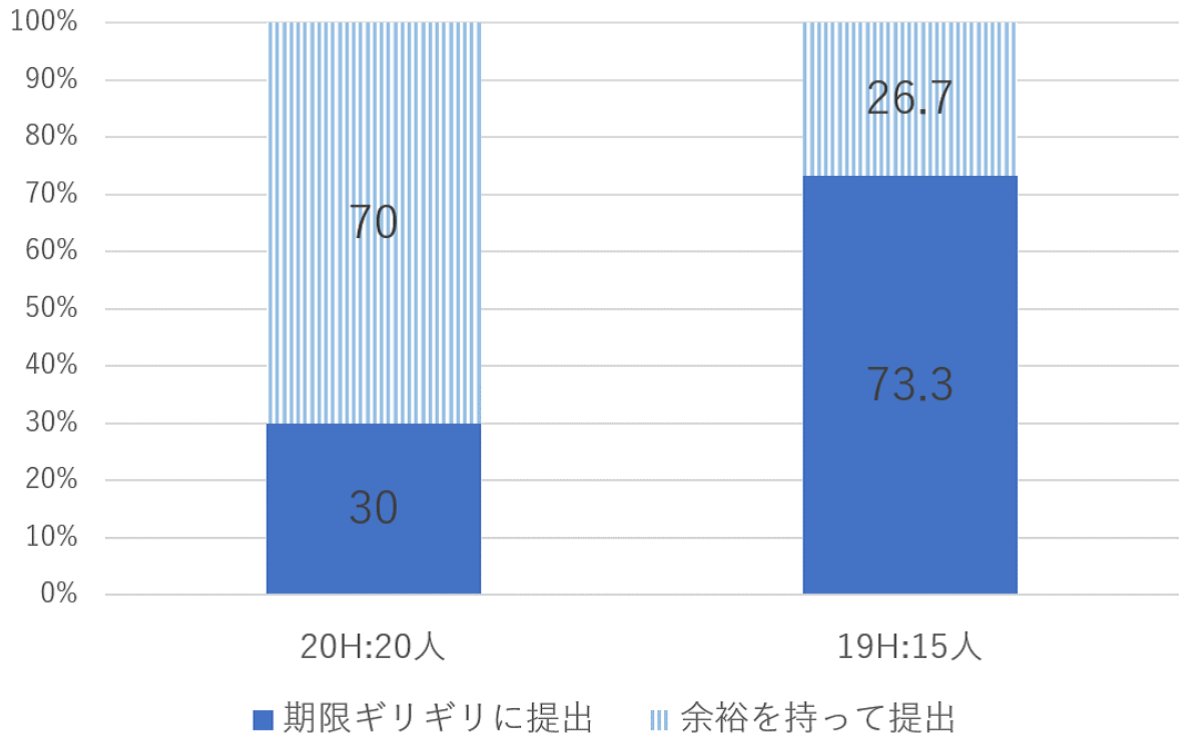

図 17　課題の提出についてのグラフ。20H の内 “期限ギリギリに提出” は 6 人、“余裕を持って提出” は 14 人。19H の内 “期限ギリギリに提出” は 11 人、“余裕を持って提出” は 4 人。塗りつぶしは “余裕を持って提出”、横線は “期限ギリギリに提出” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.4　大学生感を感じない

“対面授業はあったか” を図 18 に、“大学生活を送っている感覚はあったか” を図 19 に、それぞれ示す。

グループ別での対面授業の実施がされたことで、大学に行く機会が増え、前年度より大学生感を感じやすいと考えていたが、あまり変化はないという結果となった。授業を受けるために大学に行く機会は増えたが、学生食堂や施設の利用を制限されていたため、大学生感を感じるほど大学を利用できなかったのではないかと考えられる。

- 対面授業はありましたか?
  19H と 20H ともに、9 割以上の学生が対面授業を受けるために、たまに大学へ行っていたようだ。履修している授業によっては、前年度に引き続き全面オンライン授業となっている学生もいたようだ。

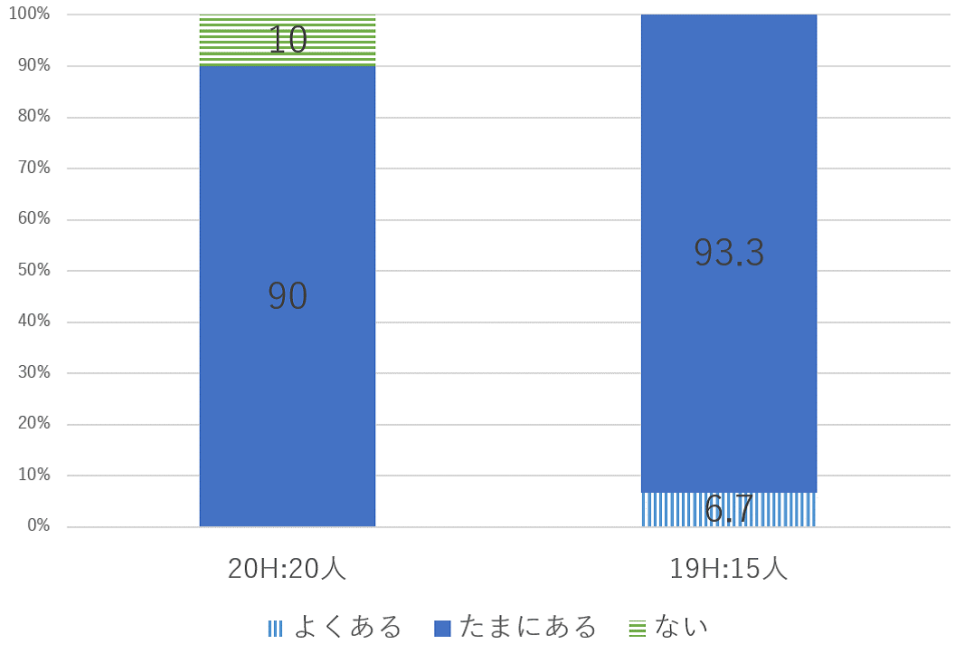

図 18　対面授業の有無についてのグラフ。20H の内 “たまにある” は 18 人、“ない” は 2 人。19H の内 “たまにある” は 14 人、“よくある” は 1 人。塗りつぶしは “たまにある”、横線は “ない”、縦線は “よくある” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 大学生活を送っている感覚はありましたか?

  19H に関しては前年度と同様、7 割の学生が大学生活を送っている感覚がなかったと回答した。20H に関しては回答が半々に分かれる結果となった。19H より大学生活を送っていると感じるのは、20H は入学時から全面オンライン授業を受けてきたので、今年度から実施されたグループ別での対面授業の影響により、大学に行くこと自体が増えたからではないか、と考えられる。

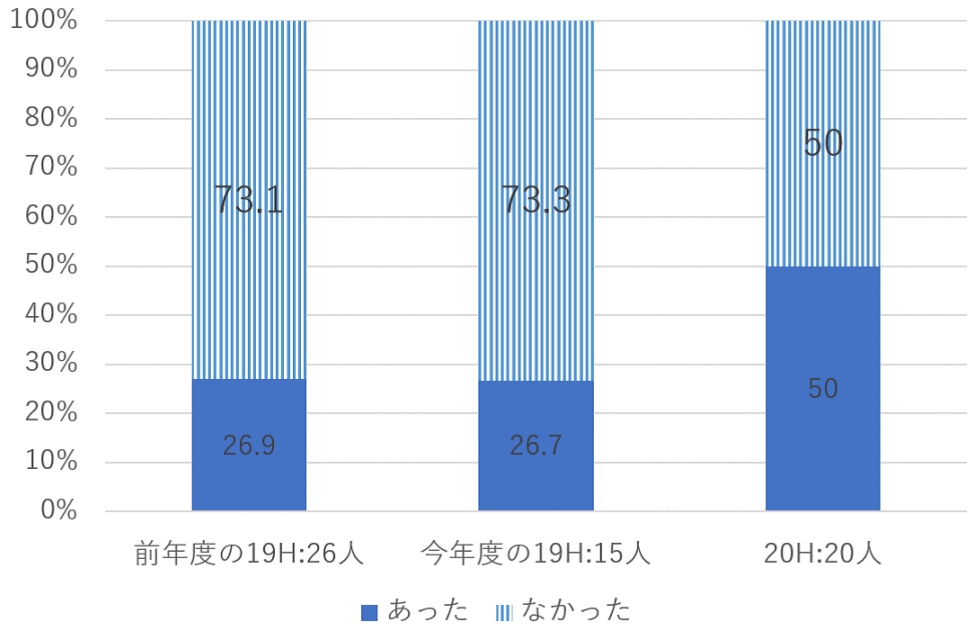

図 19　大学生感についてのグラフ。前年度の 19H の内 “あった” は 7 人、“なかった” は 19 人。今年度の 19H の内 “あった” は 4 人、“なかった” は 11 人。20H の内 “あった” は 10 人、“なかった” は 10 人。塗りつぶしは “あった”、縦線は “なかった” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.5　不安を感じる

“自分だけ出来ていないように陥ったことがあるか” を図 20 に、“授業中孤独に感じたことがあるか” を図 21 に、それぞれ示す。

グループ別での対面授業が実施されたことによって、先生やクラスメイトと直接会って、手短に相談できる環境になったことで、孤独感などの不安は改善されると考えていたが、前年度とほとんど変化はないという結果となった。しかし、19H と 20H とでは回答が大きく異なっていた。この回答の違いは入学当初の授業形態が関係していると考えられる。。19H は入学当初はオンライン授業などなく、対面での授業が基本だったのに対し、20H は入学当初から全面オンラインでの授業を受けていた。このことから、20H にとってはオンライン授業が “普通” の授業となっていると推察できる。

- 自分だけ出来ていないように陥ったことはありますか?
  19H の学生は前年度と同様、7 割以上の学生が出来ていないと陥ったことがあると回答した。20H の学生は出来ていないと陥ったことがあると答えた学生は半分にも満たなかった。

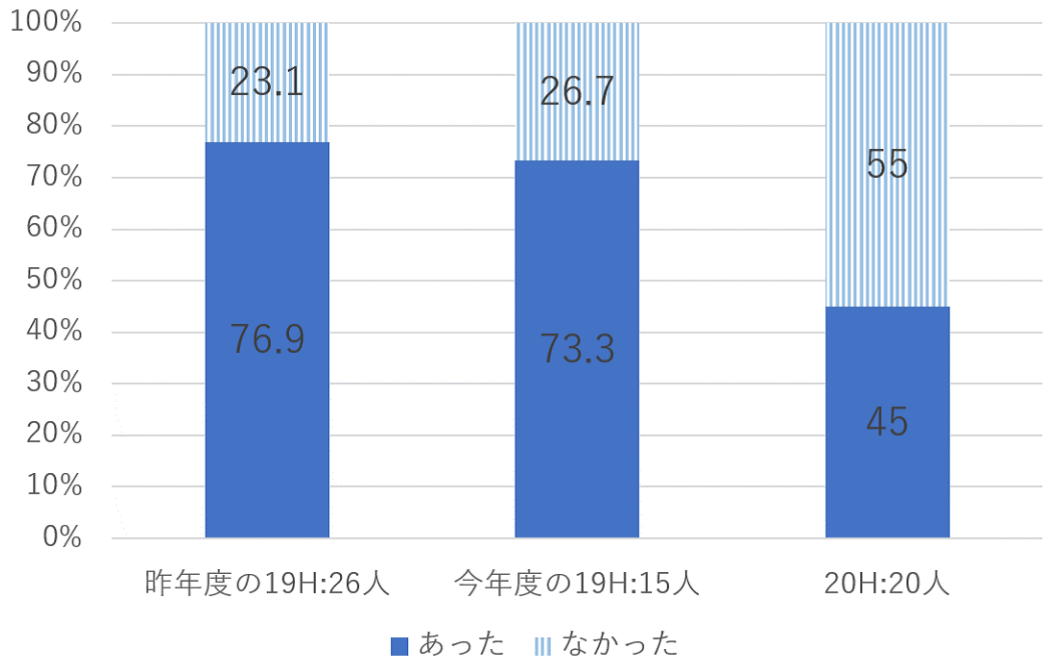

図 20　自分だけ出来ていないと陥ったことがあるかのグラフ。前年度の 19H の内 “あった” は 20 人、“なかった” は 6 人。今年度の 19H の内 “あった” は 11 人、“なかった” は 4 人。20H の内 “あった” は 9 人、“なかった” は 11 人。塗りつぶしは “あった”、縦線は “なかった” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

- 非対面授業中孤独に感じやすかったですか?

  孤独を感じやすいと回答した学生は前年度より増加する結果となった。今年度からは週に数回の頻度で対面授業が実施されていることから、却って非対面授業時には孤独を感じやすくなったのではないか考えられる。20H の学生にとっては、入学時からオンライン授業を受けているため、非対面での授業が基本となっているため、あまり孤独を感じないと考えられる。

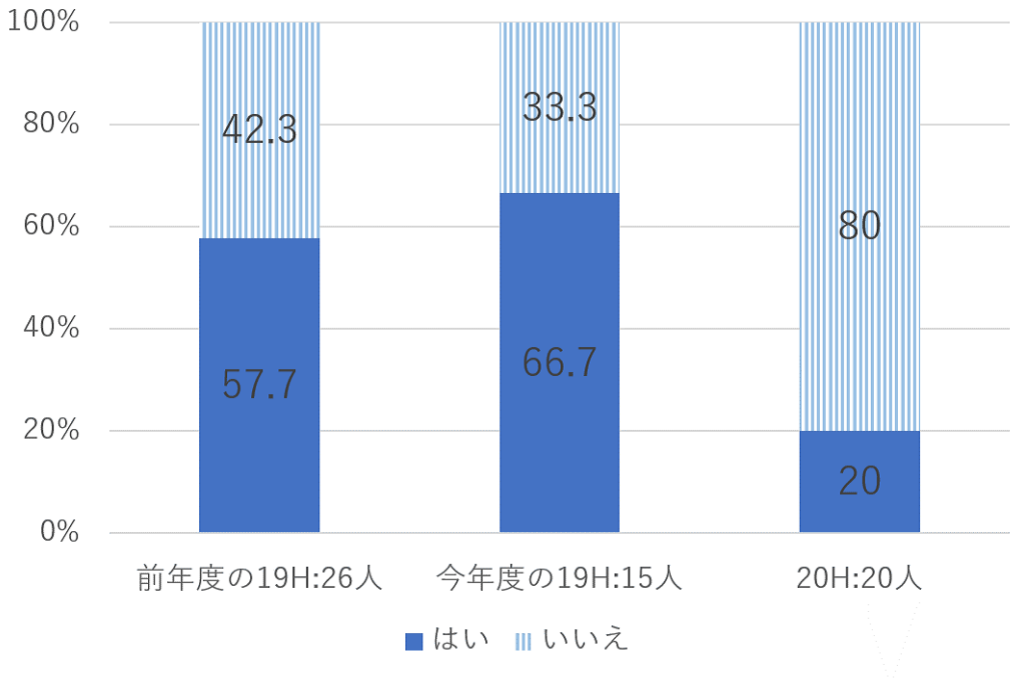

図 21　授業中孤独に感じやすいかのグラフ。前年度の 19H の内 “はい” は 15 人、“いいえ” は 11 人。今年度の 19H の内 “はい” は 10 人、“いいえ” は 5 人。20H の内 “はい” は 4 人、“いいえ” は 16 人。塗りつぶしは “はい”、縦線は “いいえ” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

6.6　生活の乱れによる遅刻

“非対面授業に遅刻した理由” を図 22 と図 23 に示す。

遅刻の割合は前年度の 19H は全体の 6 割、今年度の 19H も同様に 6 割、20H は 5 割の学生が非対面授業に遅刻したことがあると回答した。非対面授業時の遅刻理由として最も多かったのが、19H、20H ともに “夜更かし” だった。非対面授業では、電車の遅延や天気に左右されることはないので、遅刻の理由は “自己管理の甘さ” と考えられる。

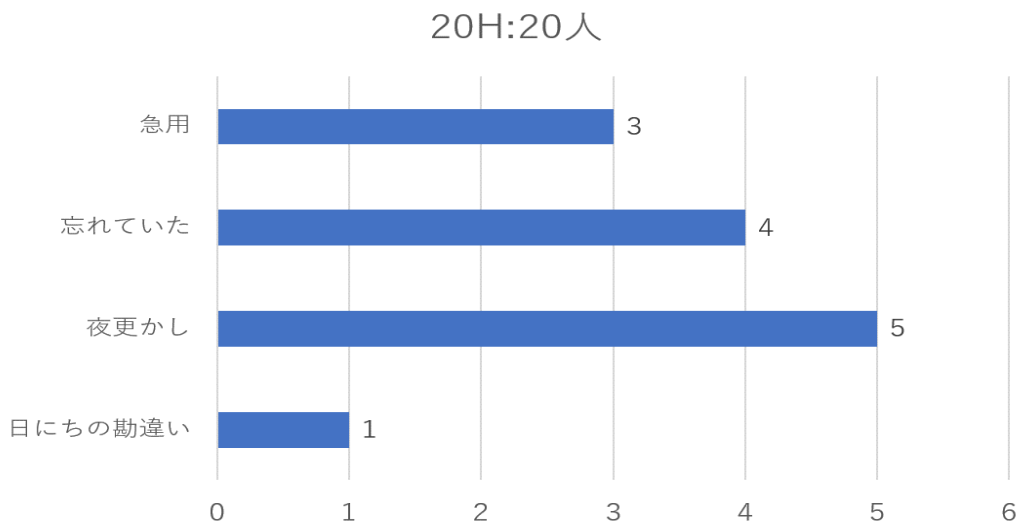

図 22　20H の遅刻の理由。遅刻理由として、“夜更かし” の割合が最も多く、次点で “忘れていた” という結果となった。

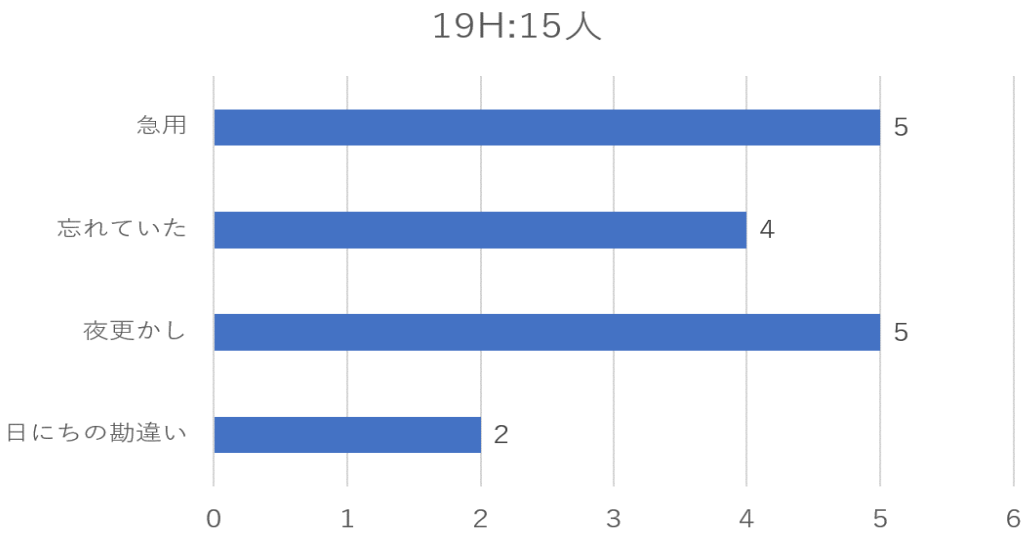

図 23　19H の遅刻の理由。遅刻理由として、“夜更かし” の割合が最も多く、次点で “急用” という結果となった。

6.7　質問はしやすく感じる

“非対面の方が質問しやすいか” を図 24 に示す。

前年度は半数の学生が非対面では “質問しづらい” と回答していたが、今年度は半数近くの学生が非対面の方が “質問しやすい” と回答していた。前年度は前例のない全面オンライン授業によって、質問の仕方などの勝手がわからなかったが、オンライン授業を 1 年経験したことにより、メールや webclass の掲示板を上手く活用できるようになり、質問がしやすいと感じるようになったのではないかと考えられる。

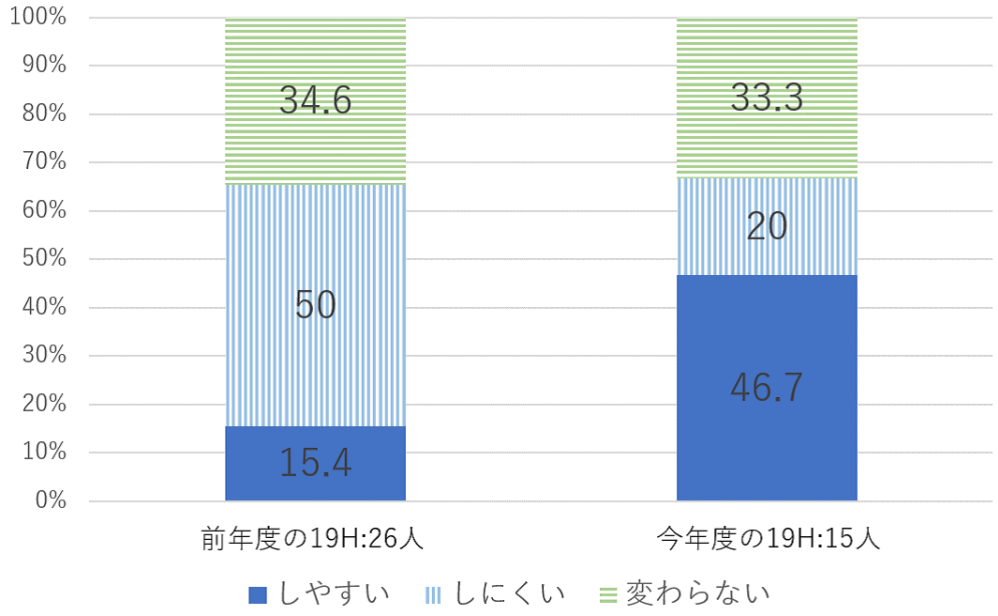

図 24　質問のしやすさのグラフ。前年度の 19H の内 “しやすい” は 4 人、“しにくい” は 13 人、“変わらない” は 9 人。今年度の 19H の内 “しやすい” は 7 人、“しにくい” は 3 人、“変わらない” は 5 人。塗りつぶしは “しやすい”、縦線は “しにくい”、横線は “変わらない” をそれぞれ示している。グラフ内の値は、そのデータの割合 (%) を表したものである。

7　まとめ

導き出した仮説は “同期との人脈は広がりやすい”、“生活習慣は乱れやすい”、“課題に対する不満は減少した”、“大学生感は感じやすい”、“不安感は減少した” とした。アンケートの結果としては、“前年度に比べて、クラスメイトと会う機会は増え、同期との人脈は広がりやすいが、先輩や後輩といった上下の人脈は未だ広がりにくい”、“グループ別での対面授業の実施により、昼夜逆転は抑制されているが、就寝時間が遅く、生活リズムは悪い”、“課題の量は未だに多いが、量ではなく提出期限に不安を感じる学生が増えた”、“大学に行く事は増えたが、学生食堂などの施設が利用できないため、大学生感は感じにくい”、“クラスメイトと会う機会は増えたが、自分だけ出来ていないように陥った学生の割合に変化はない” という傾向だった。

前年度と違い、グループ別での対面授業が実施されたことにより、大学内でクラスメイトと直接会って会話をできる環境に戻りつつあるため、同期との人脈は広がりやすくなっていることがわかった。しかし、サークルや部活動が制限されていることにより、先輩、特に後輩との関わる機会が極めて少なくなっている。私生活に関して昼夜逆転率に高くならなかったのは、定期的にある対面授業の実施が昼夜逆転を抑制しているのではないかという考えに至った。課題に関して、19H と 20H では不安に感じていることは “提出期限” と同じだが、提出するタイミングが正反対という意外な結果となった。オンライン授業を 1 年間経験したことによって、メールや webclass の掲示板といったコミュニケーションツールを上手く活用し、積極的に質問しやすくなっているのではないかと感じた。19H と 20H では、それぞれ入学当初の授業形態が異なるため、オンライン授業の際に感じることが全く違っていた。

8　今後の課題

今回実施したアンケートの実施期間が短く、回答は任意であったため、データの全体数が少なくなってしまった。対面授業前に、アンケートへの協力を促す等を行えば、もう少し細かい違いを比較できたのではないかと考える。

謝辞

本論文執筆及び作業等、研究室での活動の際以外でも、ご指示・ご協力いただきました大垣 斉准教授、情報教育システム研究室配属の学生、本学科生に深く感謝致します。

参考文献

[1] R3 年度前期の大学等における授業の実施方針等に関する調査結果. https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

[2] コロナ禍における学生の学習意欲及び生活環境への影響に関する実態調査. http://www0.ise.osaka-sandai.ac.jp/2020/17H013/

付録 A　付録 1

A.1　アンケートのお願い文

Subject:【情報システム学科】卒業研究のアンケートへの回答のお願い情報システム学科 19H〜20H の皆さんへ卒業研究のアンケートへのご協力のお願いについてデザイン工学部情報システム学科 4 年 18H050 の澤野錬と申します。現在、「昨年度と今年度のオンライン授業の比較の実態調査」を卒業研究のテーマとして進めております。調査をするにあたりアンケートを取らせて頂いております。夏頃に実施されたアンケートとは異なりますので、回答していただければ幸いです。アンケートの対象者は本学の情報システム学科の 2 年生、3 年生（19H、20H）となっております。大変お手数ですが、送付するアンケートにお答えいただきご返答いただければ幸いです。必ず大学の ge アカウント（gmail）にログインしてから回答してください。所要時間は 5 分程度です。尚、ご回答いただきましたデータにつきましては、今回の卒業研究にのみ使用し統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公開されることはありません。

A.2　アンケートの注意書き

情報システム学科の 4 年生　18H050 澤野錬です。こちらは 19H の情報システム学科を対象とし、昨年度と今年度のオンライン講義の比較の実態調査を目的とした卒業研究のアンケートになっています。ご協力お願いいたします。尚、ご回答頂きましたデータにつきましては今回の卒業研究でのみ使用し統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。また、時期の指定が無いことに関しては、今年前期中の出来事全般を指し示します。記載がある質問はその指示に従って回答してください。各項目の質問数が平均 7 個ほどあります。所要時間は 5〜10 分程度です。準備が整いましたら、次へを押してお進みください。

付録 B　付録 2

B.1　アンケート本文

B.1.1　人脈に関して

- クラスメイト（同じ授業を受けている人）に会ったことはありますか【はい・いいえ】
- 同じ学科の先生と会ったことがありますか【はい・いいえ】
- 同じ学科の先輩と会ったことがありますか【はい・いいえ】
- 同じ学科の後輩と会ったことがありますか【はい・いいえ】
- 前年度に比べて、クラスメイトと会う機会は増えましたか【増えた・減った・変わらない】
- 前年度に比べて、同学科内の先輩に会う機会は増えましたか【増えた・減った・変わらない】
- 前年度に比べて、同学科内の後輩に会う機会は増えましたか【増えた・減った・変わらない】
- クラスメイトと授業時間外に会話したことはありましたか【はい・いいえ】
- クラスメイトに新たに仲良くなった人はいますか【はい・いいえ】
- クラブ・サークル活動は行っていましたか【はい・いいえ】

B.1.2　課題に関して

- 課題の量についてどう思いますか【多い・少ない・変わらない】
- 課題を進める上で不安だったことは何ですか【量・質問・提出期限】
- わからない問題があった時どうしましたか【自分で調べる・友達に聞く・先生に聞く・先輩に聞く・諦める】
- 課題はいつ提出していたのが 1 番多かったですか【朝・昼・夕方・夜・夜中】
- 課題の提出はどうでしたか【余裕を持って提出・期限ギリギリに提出】
- わからない課題があった時、友達と協力していましたか【していた・していない】
- 友達に頼んで代わりに出席や課題を提出をしてもらったことはありましたか【あった・なかった】

B.1.3　大学生活に関して

- 一日の中でしている時間が 1 番長かったものは何ですか【勉強・ゲーム・運動・バイト・その他】
- 就寝時間は何時頃ですか【～23 時・24 時・1 時・2 時・3 時～】
- 昼夜逆転はしていましたか【はい・いいえ】
- 誰と暮らしていますか【実家暮らし・一人暮らし】
- 非対面授業に対するやる気はどうでしたか【上がった・下がった・変わらない】
- 前の質問で「下がった」と答えた方へ　やる気が下がった要因は何ですか【授業内容・友達・先生・充実した通信環境・不便・慣れない】
- 前年度に比べて、生活にメリハリが出来たと思いますか【思う・思わない・変わらない】
- 前の質問で「思う」と答えた方へ　どのような点でメリハリが出来たと感じますか【記述式】
- 大学生活を送っている感覚はありましたか【あった・なかった】

B.1.4　授業に関して

- 対面授業はありましたか【よくある・たまにある・ない】
- 非対面授業が始まる前は何をしていますか【ギリギリまで睡眠・早めに起きて準備】

- 自宅での非対面授業後は何をしていることが多かったですか【課題・ゲーム・外出・睡眠・その他】
- 非対面授業に遅刻したことはありましたか【あった・なかった】
- 前の質問で「あった」と答えた方へ　遅刻の要因は何ですか【日にちの勘違い・夜更かし・忘れていた・急用】
- 自分だけ出来ていないように陥ってしまったことはありましたか【あった・なかった】
- 非対面授業を受けている時、孤独を感じやすかったですか【はい・いいえ】

B.1.5　質問に関して

- 先生への質問はどのようにしましたか【メール・webclass の掲示板・slack ハングアウト・対面授業日にまとめて・その他・質問したことがない】
- リアルタイム授業中、質問がある場合どうしましたか【チャットで伝える・マイクを ON にする・質問したことがない】
- 文面での質問は苦労しましたか【はい・いいえ・質問したことがない】
- 前の質問で「はい」と答えた方へどのように苦労しましたか【記述式】
- 自分の意図とは違う返答が返ってきたことはありますか【ある・ない・変わらない】
- 非対面の方が質問しやすいですか【しやすい・しにくい・変わらない】
- 返事がリアルタイムでないことに不安を感じましたか【はい・いいえ・質問したことがない】

B.1.6　持ち物、準備物に関して

- 非対面授業前の主な準備物は何ですか【PC・携帯電話・充電ケーブル・モバイルバッテリー・イヤホン・教科書・ノート・ファイル・筆記用具・化粧 ポーチ・弁当・定期・水筒・鍵・傘・財布・学生証】
- 非対面で演習授業は行われましたか【はい・いいえ】
- 自分の PC に演習用の環境を構築しましたか【した・していない】
- 前の質問で「した」と答えた方へ　環境の構築には苦戦しましたか【はい・いいえ】